

➤ 25日 火曜

ヨハネ



15:18 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。

15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

15:20 しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。

15:21 しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。

15:22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今では、彼らの罪について弁解の余地はありません。

15:23 わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいます。

15:24 もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。

15:25 これは、『彼らはゆえもなくわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。

15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、

すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。

15:27 あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。

誰かの側に付くということは、その人に反対者がいた場合、その反対者の敵にもなるということが起きます。当然イエス様の側に付いていながら、反対者の味方になることはできません。あるクリスチャンはその点で、あいまいな生き方をしているかも知れません。何を信じているのかわからないような行動をとってしまうことになります。

ここでいう「世」というのは、神のものではないという意味の世であり、また神を信じない世の価値観でもあります。世がイエス様を「憎む」すなわち反対するのであるなら、そのイエス様よりも「まさるものではない」私たちをも、世が憎むのは当然の成り行きです。しかし、そのような苦境にある場合も、私たちよりも先にイエス様が「先に」憎まれたことを「知っておきなさい」と言われます。イエス様は、信仰のゆえに攻撃を受けている人の仲間であり、助け手です。

いずれにしても結局反対者の「罪は」明らかであり、「弁解の余地は」ないのでから、私たちは彼らの同調者にならないように気をつけましょう。同調者ではなく、愛の助け手やとりなし手となるべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

